

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年9月8日（月）第5校時

13：25～14：10

対 象 第2学年2組 27名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

授業者

会 場 3階 2年2組教室

### 令和7年度 研究主題

#### 学びを深める児童の育成

#### ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

#### 1 単元名 お話を読んで、お気に入りの場面を3年生に紹介しよう

教材名 『お手紙』（光村図書 2年下）

並行読書材4冊

『ふたりはともだち』『ふたりはいっしょ』『ふたりはいつも』『ふたりはきょうも』

（文化出版局 アーノルド・ローベル作 三木卓訳）

#### 2 単元の目標

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。  
〔知識及び技能〕(1)オ
- ・文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。  
〔知識及び技能〕(1)カ
- ・「ふたりは」シリーズを読み、お気に入りの場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- ・「ふたりは」シリーズを読み、お気に入りの場面を紹介するために、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- ・「ふたりは」シリーズを読み、お気に入りの場面を紹介するために、進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、感想を伝え合おうとしている。  
〔学びに向かう力、人間性等〕

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ ② 文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ	① 「ふたりは」シリーズを読み、お気に入りの場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ② 「ふたりは」シリーズを読み、お気に入りの場面を紹介するために、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ	① 進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、感想を伝え合おうとしている。

### 4 児童の実態

- ・1年生の「くじらぐも」「たぬきの糸車」で、登場人物の行動を表す言葉を基に、お話の展開を捉えたり人物の様子を想像したりして感想をもつ学習をしてきた。しかし、文章の内容の大体を把握することや、登場人物の行動を具体的に想像することに関しては、十分にできていない児童もいる。
- ・「スイミー」の学習では、挿絵と本文の結び付きを考えたり、叙述を基に登場人物の行動を具体的に想像したりして、友達と交流する活動を行った。しかし、交流の相手を選ぶときには、普段話し慣れている友達との交流に偏る児童が多かったため、「目的をもって相手を決めること」や「誰とでも交流すること」を意識させたい。
- ・これまでの言語活動においては、好きな場面を具体的に想像し、自分で考えたり友達と交流したりしたことを文章に書く活動を行ってきた。好きな場面を選び、その理由を、叙述を基に場面の様子をより具体的に想像して書くことができるようにしたい。

### 5 教材について

本教材「お手紙」は、友達の不幸せと一緒に悲しむ、やさしい「かえるくん」と、手紙なんて来ないと悲しみ、いじけている「がまくん」の間の心のつながりを描いた作品である。特別な事件が起こるわけではなく、4日遅れの、しかも内容の分かった「お手紙」を仲良く待ち続ける二人。友達同士の心のつながりに共感をもって読み進めることで、自分と結び付けて読むという活動につなげたい。

並行読書教材であるアーノルド・ローベル作「ふたりはともだち」「ふたりはいっしょ」「ふたりはいつも」「ふたりはきょうも」の4冊には、それぞれ5話ずつの物語が収められている。これらの物語は、「がまくん」と「かえるくん」を通して「友だちにどう思われているか気になる」「自分の気持ちをうまく伝えられない」「相手の気持ちがわからなくて不安になる」「友達を思いやる優しさ」といった、児童が日常で感じる心の揺れをやさしく描いている。これは、自己理解・他者理解の入り口として非常に有効であり、「自分だったらどうするか」を考えやすい並行読書教材であると考えられる。また、「がまくん」の繊細さと「かえるくん」の包容力が対照的に描かれている場面が多く、児童はそれぞれの登場人物に共感しながら、「気持ちや考え方の違い」があることに気付くこともできる。



自分の体験と結び付けた  
感想をもつ C(1)オ

自分だったら：自分も！

わたしも、がまんと同じように  
めが出るまでほろほろおくと  
できないうちから、わたしも、  
うりをするとき、「二十分弱火で  
こむ」とレシピに書いてあるのに  
ついふたも何回もあげてたしかめ  
たり、「はやく火が通るようにと、思  
てかき混ぜたりしてしまいます。  
でも、がまんとかたいに歌、わりな  
いで、わたしは、たからひりょうもあ  
げるとか、水きあげるとか、  
めを出そうと思ってしまうです。



## ②交流活動の工夫

### ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

本単元では言語活動を行うために、主に2種類のペア交流を行う。

1点目は、登場人物の行動を具体的に想像するための交流である。物語の中の特にお気に入りの場面に付箋を貼ったり線を引いたりして、その場面のお気に入りの理由について交流することで、登場人物の行動や思いを具体的に想像することができる考えた。

2点目、自分の選んだお気に入りの場面の内容と自分の体験と結び付けて感想をもつための交流である。交流の際には「自分だったら」「自分も」という言葉を示し、登場人物と自分とを結び付けて交流できるよう促す。

### イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

子供たちが自分の選んだお気に入りの場面について、友達との交流の中で自分の考え方や体験を語ることで、本単元の目標である「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。」[C(1)オ]に迫ることができる考えた。これまでの実践では、子供たちは交流自体を楽しんでいる様子ではあるが、目的を見失い形式だけの交流になってしまう姿が見られた。そのため、目的を意識して交流ができるよう、以下の点に留意したモデル動画を作成した。

- ・当該単元の目標に迫るよう、自分の体験と結び付けて感じたことを引き出せる話し合いのモデルを提示した。
- ・交流の進め方、持ち物や席の座り方、教材の置き方、聞き手の質問の仕方などを具体的に提示した。
- ・交流しているときに、本文に線を引いたり、複数の叙述を結び付けて話をしたりすることで考えを明確にする手順を示した。
- ・くらべっカードのどの部分を埋めるために交流をするのか、視覚的に分かりやすく示した。

### ウ 主体的に話し合いに参加するために

交流する場面では、目的をもって主体的に交流相手を決めることとした。教科書教材の場合は、全文シートを黒板に掲示し、子供たち一人一人が、お気に入りの場面に付箋を貼った。これにより、本文と付箋を頼りに自分で交流したい相手を探せるようにした。また、並行読書材の場合は、並行読書マトリックス表を用いて、「自分の考えをはっきりさせる」「自分の考えが相手に伝わるかどうかを確かめる」などの目的をもって、相手を選んで主体的に交流ができるようにした。

7 単元の指導計画と評価計画（12時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準
第一次	1	<p><b>お気に入りのお話を3年生に紹介するために、「くらべっこカード」を作る、学習計画を立てよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お手紙」や自分の選んだお気に入りのお話を読んで、「くらべっこカード」を作るという学習のめあてを設定する。</li> <li>・教師の、言語活動モデルを用いた紹介を聞き、学習全体の大まかな見通しをもつ。</li> <li>・学習計画を立てる。</li> </ul>	
第二次	2	<p><b>「お手紙」</b></p> <p><b>「くらべっこカード」を作るために、「お手紙」のお気に入りの場面を見つけよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お手紙」を読み、面白い（好き、いいな、楽しい、ふしぎなど）と思ったところを見つけて、サイドラインを引く。</li> <li>・全文掲示を用いて、サイドラインを引いたところを共有し、「お手紙」の大体の内容を学級全体でつかむ。</li> <li>・くらべっこカードに、「お手紙」の「あらすじ」（誰が、どうして、どうなる話）を書く。</li> <li>・くらべっこカードに、「お手紙」の「お気に入りの場面」（誰が、何をした場面）を書く。</li> </ul>	<p>【知識・技能】① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 （発言・カード）</p> <p>【知識・技能】② 文の中における主語と述語との関係に気付いている。 （交流・カード）</p>
	3	<p><b>「お手紙」</b></p> <p><b>「お手紙」のお気に入りの場面で、がまくんやかえるくんの様子を想像するために、交流しよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くらべっこカードの「お気に入りの場面」の吹き出し部分を書くために交流することを確認する。</li> <li>・選んだ場面に関わる挿絵や関連する叙述に注目し、登場人物の行動を具体的に想像する。</li> <li>・黒板の全文掲示の付箋を基に相手を決め、登場人物の行動について交流する。</li> <li>・交流したことをもとに、くらべっこカードの「お気に入りの場面」に登場人物の行動を具体的に想像したことを書く。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 （交流・カード）</p> <p>【思考・判断・表現】② 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 （交流・カード）</p>
	4	<p><b>「お手紙」</b></p> <p><b>「お手紙」のお気に入りの場面の、がまくんやかえるくんの様子を想像して、くらべっこカードに書こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くらべっこカードの「お気に入りの場面」の吹き出し部分に登場人物の行動を書いたり、挿絵の周囲に登場人物の様子を表す言葉を書いたりする。</li> <li>・交流が足りない児童は前時と同様に交流をする。</li> <li>・くらべっこカードが書けた児童は、ペアでお互いの書いた内容を確認し、より具体的になるよう書き加える。</li> </ul>	<p>【主体的に取り組む態度】 進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、感想を伝え合おう</p>

	5 本 時	<p><b>「お手紙」</b></p> <p><b>「お手紙」のお気に入りの場面について、自分と比べた感想をくらべっこカードに書こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流モデル動画を見て、交流の仕方を確認する。</li> <li>・交流する際の話形を確かめる。</li> <li>・お気に入りの場面について、「自分だったらどうするか」「どうしてそうするのか」を、交流を通して考える。</li> <li>・交流したことを基にくらべっこカードの「自分だったら」を書く。</li> </ul>	としている。(交流・カード)
	6	<p><b>「お手紙」</b></p> <p><b>「お手紙」のお気に入りの場面について、自分と比べた感想をくらべっこカードに書こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いたくらべっこカードについて、何名かの書いた文章を紹介する。</li> <li>・くらべっこカードの「自分だったら」に、自分の体験や考えと結び付けた感想を書く。</li> <li>・交流が足りない児童は前時と同様に交流をする。</li> <li>・カードが書けた児童は、ペアでお互いの書いた内容を確認し、より具体的になるよう書き加える。</li> </ul>	
第三 次	7	<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>「くらべっこカード」を作るために、自分が選んだお話のあらすじを確かめよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだお話を読み、面白い(好き、いいな、楽しい、ふしぎなど)と思ったところを見つけて、サイドラインを引く。</li> <li>・友達と交流して「あらすじ」と「お気に入りの場面」を確認する。</li> <li>・くらべっこカードに、自分が選んだお話の「あらすじ」(誰が、どうして、どうなる話)を書く。</li> <li>・くらべっこカードに、自分が選んだお話の「お気に入りの場面」(誰が、何をした場面)を書く。</li> </ul>	
	8	<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>自分が選んだお話のお気に入りの場面で、がまくんやかえるくんの様子を想像するために、交流しよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くらべっこカードの「お気に入りの場面」の吹き出し部分を書くために交流することを確認する。</li> <li>・選んだ場面に関わる挿絵や関連する叙述に注目し、登場人物の行動を具体的に想像する。</li> <li>・並行読書マトリックス表を基に相手を決め、登場人物の行動について交流する。</li> <li>・交流したことを基に、くらべっこカードの「お気に入りの場面」に登場人物の行動を具体的に想像したことを書く。</li> </ul>	

		<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>自分が選んだお話のお気に入りの場面の、がまくんやかえるくんの様子を想像して、くらべっこカードに書こう。</b></p>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらべっこカードの「お気に入りの場面」の吹き出し部分に登場人物の行動を書いたり、挿絵の周囲に登場人物の様子を表す言葉を書いたりする。</li> <li>・交流が足りない児童は前時と同様に交流をする。</li> <li>・くらべっこカードが書けた児童は、ペアでお互いの書いた内容を確認し、より具体的になるよう書き加える。</li> </ul>	
		<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>自分がえらんだお話のお気に入りのばめんについて、自分とくらべた感想をくらべっこカードに書こう。</b></p>	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流モデル動画を見て、交流の仕方を確認する。</li> <li>・交流する際の話形を確かめる。</li> <li>・お気に入りの場面について、「自分だったらどうするか」「どうしてそうするのか」を、交流を通して考える。</li> <li>・交流したことをもとにくらべっこカードの「自分だったら」を書く。</li> </ul>	
		<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>自分がえらんだお話のお気に入りのばめんについて、自分とくらべた感想をくらべっこカードに書こう。</b></p>	
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いたくらべっこカードの「自分だったら」について、何名かの書いた文章を紹介する。</li> <li>・くらべっこカードの「自分だったら」に、自分の体験や考えと結び付けた感想を書く。</li> <li>・交流が足りない児童は前時と同様に交流をする。</li> <li>・カードが書けた児童は、ペアでお互いの書いた内容を確認し、より具体的になるよう書き加える。</li> </ul>	
第三次	12	<p><b>「並行読書材」</b></p> <p><b>お気に入りのお話を、くらべっこカードを使って3年生に紹介しよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したくらべっこカードとタブレット（自分が選んだお話）を持って行き、3年生に紹介をする。</li> <li>・3年生に感想を聞く。</li> <li>・ノートに学習感想を書く。</li> </ul> <p>（実態に応じて、朝読書の時間を使って行う。）</p>	<p><b>【主体的に取り組む態度】</b> 進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、感想を伝え合おうとしている。 （紹介）</p>

8 本時（全 12 時間中の第 5 時）

(1) 本時の目標

「お手紙」のお気に入りの場面について、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつことができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	・指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。	・言語活動モデルと学習計画表を確認し、単元のゴールを確認する。	
	2 前時の学習を振り返る。	・くらべっこカードを書くために、交流をしてきたことを確認し、本時はどの部分を書くために交流するのかを確認する。	
	3 本時のめあてを確認する。	・交流のモデルを見て、流れや話形を確認する。	
<b>「お手紙」のお気に入りのばめんについて、 自分とくらべたかんそうを くらべっこカードに書こう。</b>			
展開① (30分)	4 お気に入りの場面の「自分だったら」をくらべっこカードに書くために、友達と交流して、自分の体験と結び付けた感想をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵や物語の叙述をもとに交流させる。</li> <li>・仲の良い児童同士の交流だけにならないように、全文掲示の付箋をもとに交流するように促す。</li> <li>・交流が停滞しているペアには、教師が 3 人目のメンバーとして話し合いに加わり、「自分だったらどうする?」「どうしてそうするのか?」などと質問をして交流を促す。</li> <li>・停滞が見られそうな児童とその児童への手立てを想定しておく。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b> 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (交流・言語活動)</p> <p><b>【A規準】</b> 交流を通して、お気に入りの場面について「自分だったらどうするか」を考えた上で、その行動の理由を自分の体験を踏まえて話している。</p> <p><b>【B規準】</b> 交流を通して、お気に入りの場面について「自分だったらどうするか」を話すことができています。</p>
展開② (10分)	5 交流したことをもとにくらべっこカードの「自分だったら」の部分を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流したことを想起し、「自分だったら」「自分も」という言葉を使ってカードに書くよう指示する。</li> <li>・なかなか感想を書くことができない児童に対しては、個別に友達と話し合ったことを想起させる。</li> </ul>	<p><b>【B基準に達しない児童への手立て】</b> 教師が 3 人目のメンバーとして交流に加わり、「自分ががまくんだったら、このときどうする?」などと問いかけたり、「私だったらこうする。」と答え方の例を示したりする。</p>

(3) 研究の視点

- ・交流は、物語と自分の体験や考えを結び付けて感想をもつために効果的だったか。
- ・交流のモデル動画や付箋を貼った全文掲示などは、児童が交流するときの手助けとなっていたか。

(4) 板書計画

<p>言語活動 モデル</p>	<p>言語活動 モデル</p>	<p>聞くとき 「○○さんだったら、どうする?」 「どうしてそうするの?」 「どうしてそう思うの?」 話すとき 「ぼくだったら、」 「わたしだったら、」 「ぼくも、」 「わたしも、」</p>	<p>【今日やること】 ①せじめい ②こうりゆう ③くらべっこカード「自分だったら」を書く ④ふりかえり</p>	<p>お話を読んで、お気に入りの場面を 三年生に しょうかいしよう 「お手紙」のお気に入りのばめんについて、 自分とくらべたかんそうを くらべっこカードに書こう。</p>
<p>全文シート(拡大)</p>				